

別紙様式 2 (高)

令和 8 年度 県立玉造工業高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・至誠・勤勉・協和の校訓を基盤とし、現代社会において工業が果たす役割を深く理解し、確かな技術・技能を身に付けた生徒を育成する。 ・習得した技術・技能を生かして地域社会の課題に向き合い、産業の発展を担う人材の育成を図る。 ・自他を尊重して一人一人の個性を伸ばし、主体的に学び続ける豊かな人間性の育成に努める。 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな知識・技能とともに豊かな人間性を育み、他者と協働できる規範意識の高い人材の育成 ○ 主体的に学習や資格取得等に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会で活躍できる人材に必要な、基礎的な知識・技能の習得 ○ 教育活動全体（各教科・特別活動・部活動等）をとおして、社会で活躍するために必要な豊かな人間性と高い規範意識の育成 ○ 専門的な知識・技能の向上を目指し、資格取得やものづくり競技会、探究活動等への挑戦を積極的に支援 ○ 生徒一人一人の卒業後の進路を見据えた、計画的な進路指導（キャリア教育）の充実 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業の分野に強い関心を持ち、専門的な学びや資格取得、探究活動に主体的に挑戦する意欲のある生徒 ○ あいさつを大切にし、他者の多様な考えを尊重しながら、仲間と協働して物事に取り組むことができる生徒 ○ 実習等における安全と規律の重要性を深く理解し、自律的にルールを守り責任ある行動がとれる生徒 ○ 将来の自己実現（進路実現）に向けて、失敗を恐れず粘り強く努力を継続できる生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用 3 年次までの教員を中心とした研究授業や研究協議に加え、教員同士の相互授業参観を推進し、学校全体をとおした授業力の向上を図る。 ・ICT ソフトの導入および ICT の授業での活用について、教員間での情報共有を進めながら、さらなる活用の推進を図る。 ・今年度は学校 HP を活用し、情報発信を頻繁に行ったことで、広報活動は充実してきた。一方で、教科や学科、部活動による情報発信に偏りがあるといった課題も見えてきた。次年度は、教員間での情報共有を強化し、全体的にバランスの取れた情報発信を行うことで、さらなる内容の充実を図る。 ・11 月の教育月間に伴う学校公開において、中学生を対象とした体験実習を実施し、実際に 	ICT を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進することで、基礎学力の定着と専門的知識・技能の向上を図る。	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導により、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。 ② 教科間の連携と研修を深め、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ③ 学習規律の確立を目指すとともに、個々の理解度に応じた習熟度別授業の充実を図る。 ④ ICT を活用して家庭学習の習慣化を促し、自ら主体的に学ぶ態度を育成する。 ⑤ 専門的知識・技能の向上と自己肯定感の醸成を目指し、資格取得に向けた指導体制の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ計画的な学習指導を展開し、希望進路の実現を図る。 	

別紙様式 2 (高)

<p>「工業」を体験してもらうことで、本校の学習内容や専門的な取組への理解を深める機会とすることができた。また、生徒による研究発表をとおして、日頃の学習成果を発信することができ、入学希望者の増加や学校 PR につながる有意義な機会となった。次年度は、中学生や保護者、地域の方が「工業」を体験できる場を継続して設けるとともに、研究発表の内容や構成を見直し、発表の種類やテーマ数を増やすなど、内容の一層の充実を図り、開かれた学校づくりを目指す。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立と自律的な規範意識の育成を図るとともに、自他の命を守る交通安全教育の推進に努める。</p>	<p>⑦ 進んで挨拶を交わし、自ら生活リズムを整え、規則正しく登校する基本的な生活習慣の定着を図る。 ⑧ 時と場に応じた適切な身だしなみを自ら判断し、整えることができる、自律的な規範意識の育成を図る。 ⑨ 社会を支える人材として不可欠な、他者を尊重する公共マナーの習得を図る。 ⑩ 家庭や地域・関係機関（警察等）と緊密に連携し、生徒の安全確保と安心できる教育環境の構築に努める。 ⑪ 実践的な交通安全教育を推進し、ルールを遵守して自他の生命を尊重する交通安全意識の向上を図る。</p>	
<p>・教職員の毎朝の挨拶運動により、挨拶の習慣が身に付いた生徒が増加した。また、PTA マナーアップや生徒会と委員会の生徒によるマナーアップ運動の実施により、生徒や保護者が主体となって取り組む機会を設けることができた。</p>	<p>体系的なキャリア教育を展開し、社会を支える人材としての勤労観・職業観の育成を図る。</p>	<p>⑫ 全学年を通じた計画的な指導により、生徒の進路に対する意識を継続的に高め、希望進路の実現を図る。 ⑬ 企業見学やインターンシップ、外部講師の講話等の実践的・体験的な学習を充実することにより、社会人に求められる豊かな勤労観・職業観を育成する。 ⑭ 多様な進路情報を収集・提供するとともに、生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を探究・決定する力の育成を図る。</p>	
<p>・ SNS に関連した問題行動の未然防止のため、年度初めから繰り返し注意喚起を実施した。SNS 使用上のモラルの向上は必要不可欠であるため、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・原付バイクについて、車両点検や交通ルールを繰り返し指導した。今後も交通事故防止に向けて登下校時の交通法規等の違反がないように指導を徹底していきたい。</p> <p>・早期進路目標の確立を目指して情報提供を行い、各学年と連携・協力した組織的で統一した進路指導に取り組む。</p>	<p>学校行事の充実や、部活動及び奉仕体験活動の活発化をとおして、他者と協働する姿勢や豊かな人間性の育成を図る。</p>	<p>⑮ 保護者や地域と協働し、生徒が主体的に創り上げる学校行事の充実を図る。 ⑯ 生徒の自発的な部活動への参加を促し、他者と協働する力と豊かな人間性を育む。 ⑰ 地域社会への奉仕体験活動を推進し、社会貢献の精神を育む。 ⑱ 委員会等の自治的活動を活性化し、自ら考えて行動する主体性を育む。</p>	

別紙様式2 (高)

<p>また、職員の進路指導に関するスキルアップを目指し、情報提供や研修、打合せを行い指導する教員の資質能力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新や進路通信を発行し、生徒・保護者に対して、就職や進学に関する情報を積極的に発信する。 ・特別支援については、学年と連携・情報共有をする。 ・健康診断については、事前連絡を徹底し、欠席を減らす。 	<p>中学校や地域社会、産業界等との連携を深め、「社会に開かれた教育課程」の実現と開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>⑲ 多様な広報活動で本校の教育の魅力を積極的に発信し、地域からの信頼獲得と入学者確保を図る。</p> <p>⑳ 中学校への出前授業等をとおして連携を深め、地域と協働する教育活動を推進する。</p> <p>㉑ ホームページ等を活用して日々の教育活動を迅速に発信し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>㉒ 生徒・保護者・教職員間の丁寧なコミュニケーションを基盤とし、相互の強固な信頼関係を構築する。</p> <p>㉓ 情報発信に伴う情報モラルを遵守し、個人情報の適切な保護と厳重な管理を徹底する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・役員会の提案を可能な範囲で学校行事に取り入れられるように関係部署と連携を図る。また、円滑な役員選出のために役員同士の交流の機会を増やす。 ・チャーターバスでの生徒の安全確保に努めるとともに、持続可能な運行を検討する。 ・保護者（生徒指導委員）と連携してマナーアップ活動の充実を目指す。 	<p>実習等を含めた安全で衛生的な教育環境づくりを目指し、生徒が心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。</p>	<p>㉔ 生徒の心身の健康を保持増進し、未然防止を重視したきめ細やかな教育相談・支援体制を充実する。</p> <p>㉕ 実習施設等の安全点検と整理整頓を徹底し、安心・安全で衛生的な教育環境の整備に努める。</p> <p>㉖ 災害等に備えた実践的な防災教育を推進し、自他の命を守る主体的な行動力を育む。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営では資格取得関連図書を購入し、生徒への発信に努める。 ・各種行事で各クラスの人数差に配慮した運営ができた。運営面では生徒主体とした運営を進めたところではあるが、さらに生徒の積極性を引き出し実施できるよう進めたい。 ・学校内外の活動を積極的に発信し、各種の大会に参加し実績を残すことができた。さらに活躍の幅を広げ学校の情報を発信していきたい。 	<p>教職員の働き方改革の実現に向け、ICTの活用等による校務の改善・簡素化や、学校行事の見直し等に努める。</p>	<p>㉗ 校務のマニュアル化と情報共有を進め、業務の標準化と特定の教職員への負担軽減を図る。</p> <p>㉘ ICTの積極的な活用により、情報伝達のペーパーレス化や事務作業の簡素化・効率化を推進する。</p> <p>㉙ 会議の精選や事前の資料共有等を徹底し、会議の短縮化と運営の効率化を図る。</p> <p>㉚ 勤務時間管理の意識向上を図り、時間外勤務の削減と教職員のワーク・ライフ・バランスの充実に努める。</p>	
	<p>「キャリアパスポート」を有効に活用し、生徒の主体的な学びとキャリア形成を支援する。</p>	<p>㉛ 目標設定と振り返りを定着させ、学校行事等への主体的な参画を促す。</p> <p>㉜ 地域に貢献する人材として、自らの進路に関する情報を主体的に収集・活用する力を育む。</p>	

別紙様式 2 (高)

		育成を目指す資質・能力を生徒と共有し、ICT の活用と「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善に学校全体で取り組み、確かな学力を育成する。	<p>③ 3 学年においては、高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」について、C2～D2 の達成を目指す。また、1・2 学年においては、到達度テストにおいて、第 1 回から第 2 回にかけて得点平均 5 %以上の向上を目指す。</p> <p>④ 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度 (KPI) の平均値 3.6 以上を達成する。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
国語： 教科指導 (普通教科)	語彙力を向上させ、適切な言葉を用いて、自分の考えを表現する力を養う。作品をとおして様々な考えに触れ、多様化する時代の中で生き抜く力を育む。	文章を書いたり発表したりする体験をとおして、言語的表現に関する知識を獲得する。①		
		ICT を活用し、新聞や映像といった教科書に依らない資料を積極的に用いる。また、教員間で ICT 教材の情報共有を行い、授業内容の充実を図る。②③④		
		毎時間漢字ワークに取り組む時間を設定し、定期的に小テストを行う。③		
地歴・公民： 教科指導 (普通教科)	基礎学力・学習意欲の向上を図るとともに、考える力・表現する力・メディアリテラシーを養う。社会の事象を主体的に理解し、公正・公平に判断する力を養う。	タブレットや電子黒板を活用して映像資料の提示や調べ学習を行い、さらにテスト対策プリントや小テストなどを実施することで、学習内容の理解の深化を図る。①③④		
		指導内容・方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。②		
		生徒の身近にある問題を取り上げるなど、学習内容を生徒の生活や他教科との既習事項と結びつけることで、学習意欲の向上を図る。①②		
数学： 教科指導 (普通教科)	基礎学力の向上を図り、習熟度別授業では、粘り強く計算しようとする力、問題を解決していくなかで過程を振り返り考察しようとする力を養う。	複数教員の指導により生徒の状況を把握し、基礎学力の向上を図る。①②③		
		ICT 機器を活用し視覚に働きかける教材での授業展開を工夫し、生徒の意欲向上を図る。また、生徒評価アンケートの授業満足度 3.6 以上を目指す。④④		
		課外授業を実施し、課題未提出者に対して家庭学習習慣の定着を図り、進学希望者や数学検定受検希望者に対して学力向上に努める。⑤⑥		
理科： 教科指導 (普通教科)	身のまわりの事物・事象と関連を図りながら、基礎学力の定着と学習意欲の向上に努め、選択授業では学習の到達度に応じて発展的な内容の授業を行う。	学習の導入に視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める。生徒による実験の機会を積極的に取り入れ、科学的な見方・考え方を涵養するとともに、学習意欲の向上を図る。①		
		問題演習や小テスト等の時間を確保し、学習内容を確実に定着させるとともに、ICT 機器を効果的に活用し、生徒による授業評価で、生徒満足度 3.6 以上を目指す。①④③④		
		指導方針や指導内容等について定期的に話し合いを行い、担当者間で共通理解を図ると		

別紙様式 2 (高)

		もに、指導力の向上に努める。②			
保健体育： 教科指導 (普通教科)	課題設定を工夫し、基礎体力の向上を図る。 保健に関する基礎知識を習得し、よりよく社会とのかかわろうとする態度を養う。	生徒の実態に合わせた技能の到達目標を作成する。到達目標に向けた課題を自ら考え、スキルと基礎体力を高めるよう促す。また、集団行動の授業を推進し、集団で学ぶ意義や楽しさを理解させる。各種目における課題練習をし、試合の時間を設定する。①⑦⑧②④			
		ICT 機器を活用し、健康の考え方、安全な社会づくり、各年代での健康課題、社会制度や社会環境について、生徒の身近な問題を取り上げ知識習得に繋げる。②③④			
書道： 教科指導 (普通教科)	書写能力の向上を図り、基礎的な技能を身に付け、主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統と文化に親しむ。	文字(特に自分の氏名)を読みやすく丁寧に書く方法を知り、繰り返し練習する。 普段から丁寧な書字を意識し、ノートやプリントの記入を行う。①③③④			
		古典作品の臨書により毛筆技能を身に付け、マス目ノートを利用して硬筆技能を向上させる。はがき・履歴書の書き方を学ぶ。⑤⑥⑫⑭			
		主体的に書の活動に取り組んで作品を仕上げ、日常における書に目を向ける。書を鑑賞する際に用いる用語について、語彙を増やす。④②			
英語： 教科指導 (普通教科)	学力向上に努め、対話から深く学ぼうとする態度を養う。	ワークブック、プリント等による授業を展開し、定期的に点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。①③④			
		生徒が主体的に取り組めるように、電子黒板やタブレット等の ICT 機器を活用する授業の展開に努め、生徒の授業満足度 3.6 以上を目指す。⑤⑥⑳㉔			
		遊びの要素を取り入れながら、交流活動をとおして異文化を学び、多文化共生社会で生きる態度を身に付ける。②⑨			
家庭： 教科指導 (普通教科)	家庭科に関する基本的な知識・技能を身に付け、実生活に生かそうとする態度を養う。	ワークブック、プリント等による授業を展開し、定期的に回収・点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。①			
		ICT 機器を効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。③④			
		生徒の身近にある課題を取り上げ、実生活に生かそうとする態度を養う。②⑤			
機械： 教科指導 (専門教科 ・工業)	生徒一人一人に合った基礎学力の向上、知識・技術・技能の指導を実践する。また教職員もそのためのスキルアップに日々努める。	実習内容の工夫および改善等(実用的な教材の開発)に継続的に取り組み、生徒が3年間で身に付ける能力(技術・技能等)をより明確にする。また教職員も資格取得等、自身のスキルアップに努める。①②⑨②④			
		生徒に自己評価をさせることによって、生徒自身に新たな目標を持たせるとともに、一人一人の実態を把握することにより、個々の生徒に適した指導の実現を目指す。①③⑳			
		資格取得等の目標を持たせることにより、その達成への前向きな姿勢を定着させるとともに、学習意欲を高める。また、技能検定(旋盤、検査)やものづくりコンテスト等の担当者を増員し指導体制の充実強化を図る。さらにICT教育の効果的な授業での活用の実践にも努め、生徒による授業評価で、生徒満足度 3.6 以上を達成する。④⑤㉔			
電気： 教科指導 (専門教科)	電気に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得に向けて効果的な指導を図り、第二種	電気に関する基礎的・基本的な知識について教科内で意識を共有し、授業内容を精選し、基礎学力の向上を図る。また、ICT を活用し、指導体制の充実を図り、生徒による授業評価で 3.6 以上を目指す。①④			

別紙様式 2 (高)

・工業)	電気工事士をはじめとした資格取得の指導の充実に努める。	基礎的・基本的な知識・技術の習得が図れるような実習の指導体制の構築及び座学の内容を見直し、実習・座学間の連携を図る。①②⑬			
		第二種電気工事士等の資格取得のための指導体制の充実に努める。また、資格取得をとおして主体的に学ぶ意識の向上、家庭学習の定着を図る。③⑤			
情報技術科： 教科指導 (専門教科 ・工業)	ICT に関する基礎学力の向上、知識・技術・技能の効果的指導に努めると共に、資格取得に挑戦する指導に努める。	教科内で教職員の共通理解のもと、授業内容を精選し、卒業までに身に付けさせたい能力と基礎的学力の確実な定着を目指す。また、ICT を活用し、指導体制の充実に努め、生徒の授業満足度 3.6 以上を目指す。①④⑳			
		教科間の連携を行い、教科指導方法の情報交換や、わかる授業の指導方法を検討する。教科内では、実験装置の操作研修を行い、授業および資格指導の指導力向上を目指すとともに、授業に生かす。①②⑤			
		技能士、各種検定や国家試験等、資格試験指導の案内と指導を充実させ、挑戦、合格させることによって達成感や成就感の深化を図る。①⑤			
各科共通： 教科指導 (普通教科 ／専門教科)	地域との連携・協力を努める。	地域の小中学校等と連携を図り、地域振興に寄与する人材育成の循環を目指す。⑱⑳			
教務	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上や資格取得に対する意欲を育むために、朝の学習の時間の確保に努める。①⑤			
		数学、英語と連携を図り、習熟の程度に応じた指導体制の工夫と改善を図る。②③			
	教育課程の編成と運営に努める。	各教科と連携を図り、教科の特性や生徒の実態に応じた新教育課程の検討を行う。②			
		教育課程を適切に実施するために、授業時間の確保と調整を行う。①			
	校内研修の充実に努める。	ICT、特にタブレット・PC の授業活用ならびに教材開発などの研修を行い、教員の情報機器を活用した授業の推進に努める。②⑳			
		校内の公開授業を行い、授業力の向上に努める。②⑳			
		校内研修の充実に努めるとともに、ICT を活用した教材共有や校務の改善、各種会議の効率化を推進し、業務の効率化による時間外勤務の削減と教職員のワーク・ライフ・バランスの充実に努める。㉑㉒			
	広報活動の充実に努める。	玉工通信の定期的な発行と学校パンフレットを充実させ、小中学校へ配付する。また地域と連携した出前授業を行うなど、広報活動に努める。⑱⑳			
		中学生や保護者、地域の方を対象とした学校公開を行い、開かれた学校づくりに努める。⑱㉑			
		学校 Web ページを特活部と連携し内容を充実させ、学校の特色や魅力を伝える情報発信に努める。⑱㉑			
緊急情報メールを活用し、生徒と保護者へ連絡や情報発信に努める。㉒					
教育情報に関するネットワー	校内システムとデータを整理し、教職員が利用しやすい環境を整える。㉓㉔				

別紙様式 2 (高)

	クの整理と管理に努める。	教育情報ネットワークの活用と、セキュリティの強化及び個人情報の保護に努める。⑳㉓			
生徒支援	基本的な生活習慣の育成・確立を図る。	挨拶の励行や遅刻、早退、欠席の減少に努める。㉑			
		服装、頭髪に対する意識向上指導に努める。㉒			
	規範意識の育成を図る。	社会人として必要なマナーやモラル習得に努め、規範意識の向上を図る。㉓			
		保護者や関係機関との連携を図り、生徒の規範意識向上と安全確保を図る。㉔			
	いじめを早期に発見する。また、絶対に許さない意識の育成を図る。	普段の生活から、小さな変化に気づく観察を継続する。些細なことでも生徒並びに保護者へ情報共有をし、未然防止に努める。㉕㉖			
安全教育の推進に努める。	交通安全教育を推進し、安全への意識向上を図る。㉗				
進路指導	生徒の進路に対する意識を高め、進路目標の早期確立を図りつつ、生徒が自ら考え、決定する望ましい勤労観、職業観の育成に努める。	進路通信やホームページで進路に関する情報を発信し、生徒・保護者への情報提供に努める。また各学年と連携を図り、学年集会や HR に積極的に参加し、進路に関する最新情報を提供することで、進路目標の早期確立を目指す。㉘㉙㉚			
		職業安定所や外部機関と連携し、進路講話や進路ガイダンス、見学会を企画、実施する。㉛㉜㉝㉞			
		本校の進路業務の窓口として情報を収集し、関係機関と連絡、調整を行うことで、生徒が安心して見学や説明会、採用試験などに臨めるように努める。㉟㊱㊲			
	校務の改善や効率化を図ると共に、組織的で統一した進路指導に努める。	各学年と進路指導部で情報を共有し、計画的で、組織的な進路指導が行えるように努める。㊳㊴㊵			
		ICT を積極的に活用し、生徒・保護者への情報提供および校務の改善や進路業務の効率化を図る。㊶㊷			
		進学希望者に必要な受験案内や学習情報を提供するとともに、各教科とも連携して適切な支援を実施する。㊸㊹			
保健厚生	安全で衛生的な環境を作る。	月末に環境安全点検（隠しカメラ等を含む）を行い、修繕個所の把握と速やかな修繕に努める。㊺			
		清掃の徹底を図り、各種施設利用のマナーの定着・習慣化を確実なものにする。㊻			
	健康の保持増進を図る。	健康診断の事後措置、講演会を計画的に実施し、自身の健康に対する意識向上を図る。㊼			
	特別支援体制の確立と、教育相談の更なる充実を図る。	特別支援体制を確立し、配慮を要する生徒に対して、校外協力機関と連携し適切な支援に努める。㊽			
	災害対策マニュアルの見直しと、防災意識の喚起を図る。	各種災害に備えた防災マニュアルの整備（校内と市の連携）と見直しを行い、将来の地域防災の担い手を育成する。㊾			

別紙様式 2 (高)

渉外	P T A活動を活発にする。	学校行事を通して保護者との交流を図り、P T A活動をより参加しやすく充実感や達成感のあるものにし、持続可能な組織づくりに努める。⑮⑳		
	チャーターバスの安全かつ継続的な運行に努める。	保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全を確保し、利用しやすさの向上に努め、持続可能な運行方法を検討する。⑩⑱		
	生徒の校内外での安全確保に努める。	挨拶の習慣や公共のマナーを身に付けさせる。⑦⑧⑨		
	図書館の利用を促進する。	購入図書の実用を目指し、情報発信に努める。⑤⑬		
特別活動	学校行事の充実を図る。	生徒数の減少に対応し、行事の実施方法を工夫し、全ての生徒が主体的に参加できる活動内容を検討する。また、キャリアパスポートの活用を図る。⑮⑳		
	部活動の活性化を図る。	新入生の部活動加入率向上と活性化を図るため、部活動紹介の充実、ICT等を活用した広報活動を行う。また、定期的に部活動顧問会議を開催し、継続率の向上につなげる。⑯		
	奉仕活動の充実を図る。	ボランティア活動を奨励するため、地域の情報を校内掲示やICTで発信し、参加機会を計画・紹介し、継続的な参加を促す。⑰		
	広報活動の充実を図る。	学校HPで行事や部活動の様子を定期的に発信し、更新体制を整備する。また、地域団体と連携して交流事業の充実を図り、生徒の主体的な参加を促す。⑮⑳		
	生徒会活動を活発にする。	学校行事を生徒主体で運営できるように、委員会集会を定期的に開催し、役割分担や進行計画を明確化。また、振り返りを行い改善点を共有し、次回の行事運営に生かす。⑱		
第1学年	基礎学力の向上を目指す。	教科間で連携を図り、生徒の実態把握に努め、学習意欲の定着・向上、主体的な学習態度を育成する。さらにタブレット端末を有効活用する。②③⑳		
		積極的な授業への取り組みを促し、繰り返しの通して基礎・基本を定着させる。各教科からの課題等を課すことで家庭学習習慣の定着を図る。①④㉑		
		資格取得、課外授業、部活動等に対し積極的・継続的に参加する姿勢を育成する。⑤⑯		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	ICT等を利用して、家庭との連絡を密に取り、生活状況を把握し、欠席・遅刻・早退の防止に努める。⑩⑳㉒		
		頭髪服装指導、校内巡回を定期的に行い実施し、高校生らしい身なりやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。⑦⑨		
		部活動や学校行事を通して、協調性や社会性の向上を図る。また、情報教育の一環として、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。⑮⑯㉓		
	進路目標の早期明確化を目指す。	面談等をおして進路に対する関心を高めるとともに、社会人として必要なマナーの向上を図る。⑨⑫		
進路ガイダンス等を実施し、個々の適性を見出す機会を設ける。⑥⑫				
進路に対する総合的な探究の時間の充実を図り、会社・学校見学を実施するなどキャリア教育の充実を図る。⑬⑭				
第2学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	朝の挨拶や服装頭髪指導および校内巡視等をおして、身だしなみやマナーを身に付け、規範意識の向上を図る。⑦⑧⑨		

別紙様式 2 (高)

		学校教育の中に情報教育を取り入れ、SNS でのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。②③		
		家庭との連携をはかり、生活状況を把握し、交通安全と遅刻・欠席・早退の減少に努める。⑦⑩⑪		
		部活動や学校行事を通して協調性や社会性の向上を図り、充実感や達成感が得られる学校生活とする。⑮⑯⑰		
	基礎学力の向上を図る。	積極的な授業への取り組みを促し、基礎・基本の定着と学習の習慣化を図る。各教科からの課題等及びスタディサプリの活用により、家庭学習習慣の定着を図る。①③④⑳		
		授業において ICT 機器を積極的に活用し、学ぶ意欲の向上と定着を図る。①④		
		資格取得の案内や補講、課外を実施し、意欲的な資格取得を目指す生徒を育成する。明確な進路目標を持つことで、学力の向上を目指す。⑤⑥		
		スタディサプリを活用し、苦手分野の克服を目指す。到達度テスト及び定期考査の振り返りの充実を図る。次への目標設定を行うことで学力向上につなげる。①③㉑㉒		
	進路目標の早期明確化及び意識の向上を図る。	進路ガイダンスおよびインターンシップを実施する。上級学校や企業見学等への積極的な参加を呼びかけ、進路に対する関心を高めると共に、「handy 進路指導室」の有効活用を図る。⑥⑫⑬⑭㉓		
		進路指導部と連携して、1 年時の探究活動をふまえ、主体的に情報を収集できる環境を整えると共に、面談等を行い個々にあったきめ細かい指導を心がける。⑥⑫⑭		
第 3 学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	個別面談を積極的に行うこと、家庭との連絡を密に取ることで生徒の生活状況を把握し、必要な支援を行い、欠席・遅刻・早退の減少に努める。⑦⑩		
		授業や学校行事等において、情報モラルについて考える機会を設定し意識を高めることで、SNS トラブルの防止、情報モラルの育成を図る。⑨		
		学年集会や服装頭髪指導等を通して社会人としての身だしなみやマナーを身に付けさせ規範意識の向上とコミュニケーション力の向上を図る。⑧⑨		
	安全・安心な学習環境づくりと基礎学力の向上を図る。	タブレットを用いた学習を進めることで、自ら学ぶ習慣を身に付けさせるとともに、基礎・基本の定着を図る。③④		
		考査後に、次回の目標設定や学習計画の作成を行う等、振り返りを行うことでよりよい学習環境を整えるとともに、基礎学力の向上を図る。①		
		朝学習において SPI の問題を取り入れるなど、就職試験に向けてより効果的な時間になるように工夫し基礎・基本の定着と学習の習慣化を図る。④㉔		
	希望進路の実現を目指す。	進路ガイダンスや面接指導等の進路に対する対策を組織的・計画的に行うことで、進路意識の向上を図るとともに主体的に進路活動に取り組む姿勢を育む。⑫⑬⑭		
		進路指導部との連携と「handy 進路指導室」を有効に活用することで、生徒一人一人に合ったきめ細かい進路指導と効率的な進路指導を目指す。⑩		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である。 E：できていない